

## いわて景気ウォッチャー調査

平成30年4月調査

当研究所では今年1月に続き「いわて景気ウォッチャー調査」を実施した。

県内では、東北絆まつりの開催やいわて花巻空港の台湾定期便の就航が予定されるなど、観光客の増加や経済効果への期待が高まっている。こうしたなか、県内の景気ウォッチャーはいかなる景況判断をしているのか、前回調査と比較し分析した。

景気の現状および先行きの判断指数（DI）の推移をグラフ化し、全国調査と比較すると図表1のようになる。

なお、本調査が別掲の「岩手県内企業景況調査」と異なるところは、県内経済の第一線で働く方々の「実感」を聴取している点である。

## 〈調査結果の要約〉

現状判断は8期ぶりに50を上回る

3カ月前と比較した県内の景気の現状判断指数は、52・0と前回（46・3）に比べ5・7ポイント上昇し、景況感の分かれ目とされる50を8期ぶりに上回った。青果物などの仕入れコストの低下や観光客の増加により飲食関連を中心に消費が活発化したこと、製造業の一部の業種において受注が堅調であることなどから、県内の景気ウォッチャーは持ち直しの動きを感じている。

分野別にみると家計動向関連指数は48・9（前回比7・2ポイント上昇）、企業動向関連指数は59・4（同6・3ポイント上昇）、雇用関連指数は56・3（同9・3ポイント低下）となった。

地域別では、県央、県南、県北地域で50を上回ったが、沿岸地域では50を下回った。

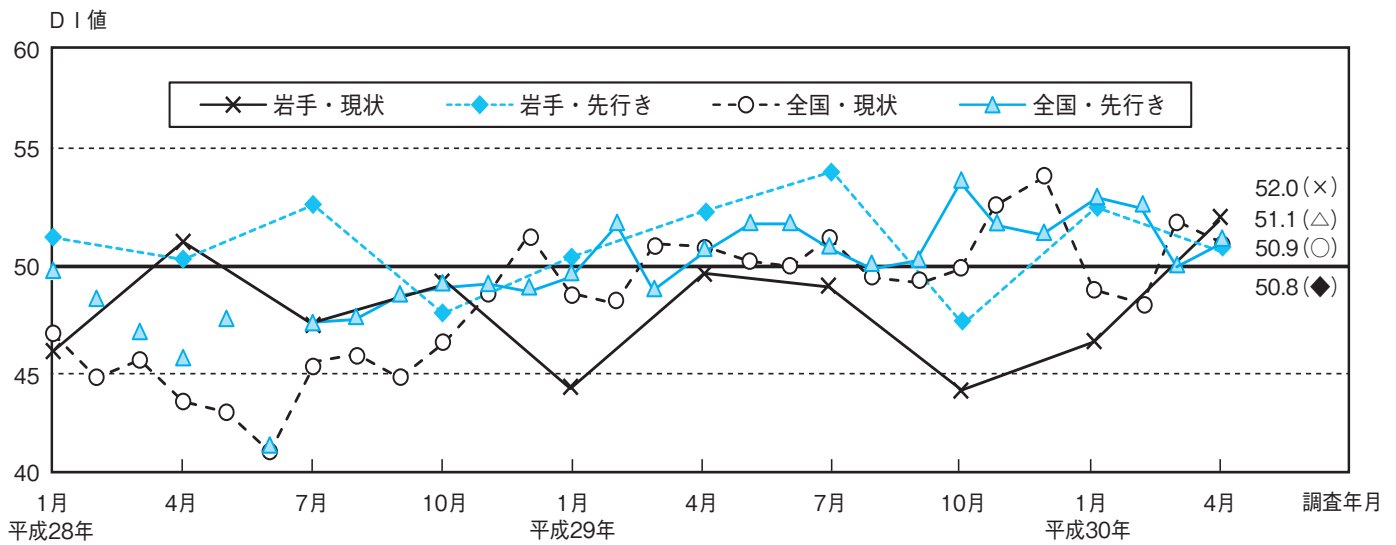
先行き判断は2期連続で50を上回る

2～3カ月前の県内の景気の先行き判断指数は50・8と前回（52・5）に比べ1・7ポイント低下したものの、2期連続で50を上回った。人件費の増加など経営の厳しさが窺われる一方で、東北絆まつりなどイベントの開催による観光客の増加に期待が寄せられた。分野別にみると企業動向関連指数は59・4（同4・2ポイント上昇）、家計動向関連指数は48・5（同1・9ポイント低下）、雇用関連指数は43・8（同18・7ポイント低下）となった。

地域別では、県南で50を上回り、県北も50・0となったが、県央と沿岸地域は50を下回った。



図表1 景気の現状・先行き判断指数(DI)の推移



調査要領

1. 調査内容

- (1) 景気の現状に対する判断
- (2) (1)の理由及び具体的状況の説明
- (3) 景気の先行きに対する判断
- (4) (3)の理由

※(1)、(3)は5段階評価による回答とする。

2. 調査時期

平成30年4月

3. 調査対象者・方法

県内の景気の動きを敏感に観察できる立場の方々110名への郵送、電話による聴取(図表2、3)。

4. 回収状況

有効回答数 100件  
回収率 90・9%

5. 指数(DI値)の算出方法

5段階の判断に、それぞれ図表4のとおり点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じてDI値(Diffusion Index)を算出する。DI値は50を目安としており、50を上回っていれば景気の上昇局面、下回っていれば下降局面と判断する。

図表3 調査対象者の分野・業種

分野(調査対象者数)	調査対象者の代表的な業種
家計動向関連(76名)	
小売関連(30名)	百貨店、スーパー、コンビニ、一般小売店、自動車販売など
飲食関連(16名)	飲食店、割烹・料理店、スナック、外食チェーンなど
サービス関連(22名)	ホテル・旅館、クリーニング店、ガソリンスタンド、タクシーなど
住宅関連(8名)	建設設計事務所、不動産販売、住宅販売など
企業動向関連(24名)	製造業、広告代理店、運輸業、農林水産業など
雇用関連(10名)	人材派遣、学校就業関係者、求人広告など

図表2 調査対象地域の区分

地域(調査対象者数)	市町村
県央地域(39名)	盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町
県南地域(42名)	花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ケ崎町、平泉町
沿岸地域(19名)	宮古市、大船渡市、陸前高田市、釜石市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村
県北地域(10名)	久慈市、二戸市、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町

図表4 指数(DI値)点数表

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+1.00	+0.75	+0.50	+0.25	0.00

1 県全体の状況

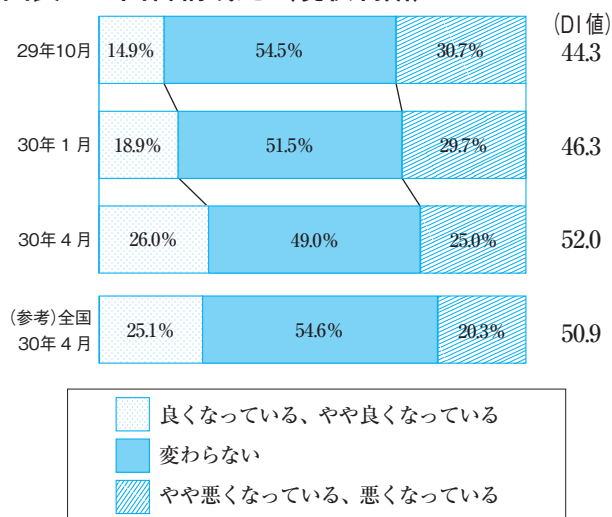
(1) 現状判断

県内の景気の現状判断指数は52・0と前回(46・3)に比べ5・7ポイント上昇し、景況感の分かれ目とされる50を8期(2年)ぶりに上回った。青果物などの仕入れコストの低下や観光客の増加により飲食関連を中心に消費が活発化したこと、製造業の一部の業種において受注が堅調であることなどから、県内の景気ウォッチャーは持ち直しの動きを感じている(図表5)。

図表5 景気の現状判断指数(DI)の内訳

分野	29年10月	30年1月	30年4月	増減
合計	44.3	46.3	52.0	5.7
家計動向関連	41.3	41.7	48.9	7.2
小売関連	38.4	39.3	47.3	8.0
飲食関連	37.5	41.7	63.6	21.9
サービス関連	42.9	39.3	42.0	2.7
住宅関連	53.1	56.3	53.6	△ 2.7
企業動向関連	50.0	53.1	59.4	6.3
雇用関連	53.1	65.6	56.3	△ 9.3

図表6 回答構成比(現状判断)



(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

回答構成比は「良くなっている」「やや良くなっている」が26・0%(前回18・9%)と増加した一方、「変わらない」は49・0%(同51・5%)、「やや悪くなっている」「悪くなっている」は25・0%(同29・7%)とともに減少した(図表6)。

分野別にみると、家計動向関連指数は48・9と前回(41・7)から7・2ポイント上昇した。内訳は小売、飲食、サービス関連が前回を上回り、住宅関連は前回を下回った。「野菜の流通量が回復し、仕入れ単価が下がった(県央・青果物卸売業)」とコスト面の改善を示す回答や「春のツアーやチャーター便を利用した観光客の動きが活発である(県南・飲食業)」との回答があった。また、住宅関連では「不動産の取

(2) 先行き見通し

県内の景気の先行き判断指数は、50・8と前回(52・5)に比べ1・7ポイント低下したものの、2期連続で50を上回った。回答構成比は「良くなる」「やや良くなる」が23・0%(前回31・7%)と減少したが、「変わらない」が54・0%(同45・5%)、「やや悪くなる」「悪くなる」は23・0%(同22・8%)と増加した(図表7、8)。「人件費の負担が増加しているほか、売上げの前年割れが続くなど景気が上向き様子が少ない(県南・ガソリンスタンド)」と販管費の増加などによる経営の厳しさが窺われる一方、「東北絆まつりなどの大規模なイベントの開催に伴う消費の活発化が見込まれる(県央・商店街組合)」など観光客の増加に期待を寄せ

引は堅調だが、土地の単価が低下している(県南・不動産取引業)」と地価の低迷を警戒する声が聞かれた。

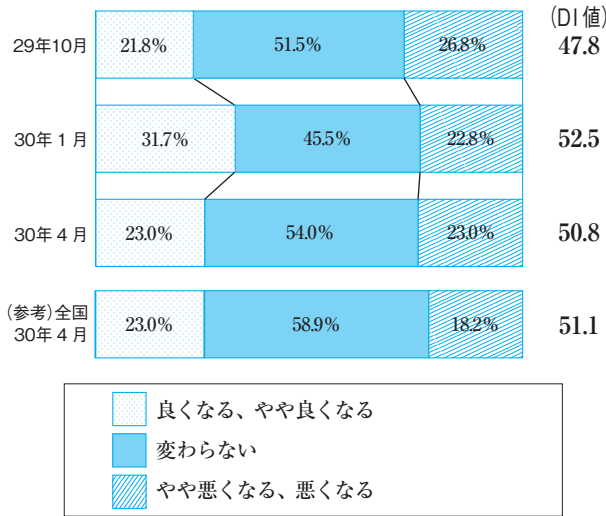
企業動向関連指数は59・4と前回(53・1)に比べ6・3ポイント上昇した。「継続して受注が伸びており工場を増設した(県南・電子部品製造業)」と製造業の一部で好調な受注を示す回答があり、判断指数を押し上げた。

雇用関連指数は56・3と前回(65・6)に比べ9・3ポイント低下したものの50を上回った。「求人数は高止まりしている(沿岸・学校就業担当)」と学生の売り手市場が続いており変化はみられないとの回答が多数となった。

先行き見通し

県内の景気の先行き判断指数は、50・8と前回(52・5)に比べ1・7ポイント低下したものの、2期連続で50を上回った。回答構成比は「良くなる」「やや良くなる」が23・0%(前回31・7%)と減少したが、「変わらない」が54・0%(同45・5%)、「やや悪くなる」「悪くなる」は23・0%(同22・8%)と増加した(図表7、8)。「人件費の負担が増加しているほか、売上げの前年割れが続くなど景気が上向き様子が少ない(県南・ガソリンスタンド)」と販管費の増加などによる経営の厳しさが窺われる一方、「東北絆まつりなどの大規模なイベントの開催に伴う消費の活発化が見込まれる(県央・商店街組合)」など観光客の増加に期待を寄せ

図表8 回答構成比（先行き見通し）



(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表7 景気の先行き判断指数(DI)の内訳

分野	29年10月	30年1月	30年4月	増減
合計	47.8	52.5	50.8	△ 1.7
家計動向関連	45.3	50.4	48.5	△ 1.9
小売関連	42.9	42.9	46.4	3.5
飲食関連	56.3	60.4	52.3	△ 8.1
サービス関連	39.3	50.0	48.9	△ 1.1
住宅関連	53.1	62.5	50.0	△ 12.5
企業動向関連	52.1	55.2	59.4	4.2
雇用関連	56.3	62.5	43.8	△ 18.7

沿岸地域は現状、先行きともに48・5となり、いずれも50を下回った。「復興工事関係の需要は減少しているが、フェリー運航による観光客の増加に期待したい（旅館業）」と景気に厳しい判断をする中で、宮古・室蘭フェリー航路開設に伴う新たな需要の拡大に期待する回答もみ

地域別では、現状は県央、県南、県北地域で50を上回ったが、沿岸地域では50を下回った。また、先行きでは県南地域は50を上回り、県北地域も50・0となったが、県央と沿岸地域は50を下回った（図表9）。  
個々の地域で見ると、県央地域は現状が52・1、先行きが47・2となった。「原材料や物流コストが増加し、商品が値上がりしている（大型小売店）」と値上げによる消費への影響を懸念する声が多かった。

## 2 地域別の状況

分野別では、企業動向関連指数は59・4（同55・2）と上昇したが、家計動向関連指数は48・5（同50・4）、雇用関連指数は43・8（同62・5）といずれも前回より低下した。

図表9 地域別の景気判断指数(DI)

地域	景気の現状判断指数 (DI)				景気の先行き判断指数 (DI)			
	29年10月	30年1月	30年4月	増減	29年10月	30年1月	30年4月	増減
合計	44.3	46.3	52.0	5.7	47.8	52.5	50.8	△ 1.7
県央地域	41.7	41.2	52.1	10.9	47.9	54.1	47.2	△ 6.9
県南地域	48.6	49.3	52.0	2.7	47.3	53.4	55.4	2.0
沿岸地域	41.7	47.1	48.5	1.4	48.6	50.0	48.5	△ 1.5
県北地域	42.5	52.5	57.5	5.0	47.5	47.5	50.0	2.5

県北地域は現状が57・5、先行きが50・0となった。「人口減少により学童輸送契約数のマナス傾向が続くと予想される（タクシー業）」と人口減少による需要の低下を懸念する回答があった。

(研究員 阿部 瑛子)

## 【景気ウォッチャーの主なコメント】

	分野	判断	判断の理由	
現 状	家計 動向 関連	良	3月中旬～4月中旬にかけて客層、年齢層問わず来店客が増加した。(県央：飲食業)	
		やや良	青果物の流通が回復してきており、仕入れ単価が下がってきている。 (県央：青果物卸売業)	
		やや良	桜の開花に伴い、春のツアーやいわて花巻空港の台湾チャーター便などを利用した観光客の動きが活発になってきた。(県南・飲食業)	
		不変	客数は増加しているものの、不漁により魚の仕入れ価格が高騰しており、粗利を取るのが難しくなっている。(県央：鮮魚卸売業)	
		不変	低金利が続き、土地建物の取引は好調なものの、土地の単価が低下しているため景気の判断は横ばいである。(県南：不動産取引業)	
		不変	復興道路や風力発電の建設によりトラックの交通量が増えているが、身のまわりの景気が良くなったと実感できるものがまだない。(県北：ガソリンスタンド)	
		やや悪	業績悪化により、高齢の小規模事業者の廃業が増加している。(県南：商店街組合)	
		やや悪	町内の復興道路工事が終了し、宿泊施設や飲食店の客数が減少している。 (沿岸：観光事業)	
	企業 動向 関連	良	継続して受注が伸びており工場を増設した。人手不足といわれるなか、当社では従業員も順調に増加しており生産力が向上している。(県南：電子部品製造業)	
		不変	様々な業種から受注があるが、業種によって良し悪しが分かれており、総合すれば例年と比べ大きな変化はない。(県央：機械製造業)	
		やや悪	材料費の値上りがあり、また値上り分の価格への上乗せも厳しい状況である。 (県央：家具製造販売業)	
		雇用 関連	やや良	関東圏の企業を中心に求人数が増加し、賃金水準も上昇している。 (県央：学校就業担当)
			不変	求人数に大きな変化は見られないが、採用に積極的な企業もあり、県内外の企業からの求人が継続している。(県南：学校就業担当)
			不変	求人数に変化はなく、売り手市場が続いている。(沿岸：学校就業担当)

	分野	判断	判断の理由
先 行	家計 動向 関連	良	東北絆まつりなど大規模なイベントの開催に伴う消費の活性化を見込んでいる。 (県央：商店街組合)
		やや良	国内の団体客の減少など不安材料はあるものの、台湾など海外からの予約があり今後の観光客の増加に期待している。(県南：観光施設)
		やや良	東芝メモリの工場建設に伴い事務所やアパートの需要が増加してきている。 (県南：不動産取引業)
		不変	大きな変動はなく、低迷したまま推移するとみている。原材料や物流コストの高騰による商品の値上げが懸念材料である。(県央：大型小売店)
		不変	復興工事関係の需要は減少しているが、宮古-室蘭フェリー航路開設による観光客の増加に期待したい。(沿岸：旅館業)
		やや悪	年々来店客が減少傾向にあり、前年より落ち込むと予想。道路が整備され、人の流れが街中ではなく外に向かっているのではないかと思う。(沿岸：大型小売業)
		やや悪	生徒の減少に伴い学童輸送の契約数が減少している。人口の減少による需要の低下が続くと予想される。(県北：タクシー業)
		悪	最低賃金の引き上げにより人件費の負担が増加し、物価も上昇するなかで、売上げは前年割れが続いており景気が上向く様子がない。(県南：ガソリンスタンド)
き	企業 動向 関連	やや良	受注が伸びていることから設備の増設や増員を実施するなど増産体制を整えた。 (県南：自動車部品製造業)
		不変	公共工事の発注が減少しており、競争の激化による低額での落札が増加している。また、作業員の高齢化や若手の人材不足といった不安がある。(県北：建設業)
		やや悪	食品などの値上がりにより出費が多くなっている。野菜などの価格は値ごろ感があるが、食品全般は値上げが続くと予想している。(県南：食料品製造業)
	雇用 関連	不変	賃金は上昇しているものの中小企業では引き続き深刻な人手不足となっており、しばらくはこの状況が続くと思われる。(県南：新聞求人広告)
		不変	来校する企業数は例年と変わらず、雇用者数の増加、新規出店などの話題は聞こえてこない。(沿岸：学校就業担当)
		やや悪	関東圏の急激な求人増加により、地方では人材確保が困難になると予想される。地方の活気が低下していくのではないかと懸念している。(県央：学校就業担当)